



## 猛暑日：最高気温35℃以上

- 気象庁は暑さを分析的な表現にすべく、2007年の4月から「猛暑日」なる言葉を新しく使い始めた。昨年までは、最高気温が25度以上の「夏日」、最高気温が30度以上の「真夏日」という分け方しかなかった。新しい「猛暑日」とは、最高気温が35度以上の日のことである。ちなみに、寒さを表現する「冬日」は、最低気温が0度未満になった日、「真冬日」は最高気温が0度未満の日である。
- 「猛暑日」が設定されたのは、地球温暖化やヒートアイランド現象などによって、夏の都市部で最高気温が35度以上になる日が多くなったためである。実際にいくつかの都市の2006年の気温を見てみると、「猛暑日」日数は、東京3日、名古屋市14日、大阪市17日、福岡市6日となっている。



## 気温上昇がもたらす異変

- 地球の気温上昇につれ、気候システム全体が変わりつつある。
- その影響は地球上の全ての生物に及んでいる。
- 熱波や暴風雨は破壊力を増し、作物の収量が減り、極地の氷が溶けだし、海面が上昇し、水源となる雪原や氷河が縮小している。
- 産業界では農業、保健、観光業がもっとも大きな影響を受けている。